

## 第2回ワークショップの結果概要

### 1 用途別方針について

#### (1) 市民文化系施設

##### ①集会施設

- 小学校区に1か所の配置になると、廃止された地区では公民館までの距離が遠くなるのが問題だ。高齢化が進んでいることもあり、集会の場所が少しでも遠くなると集まりが悪くなることが予測される。
- 公民館は集会の場だけでなく、避難所や消防団や土地改良区の拠点にもなっているので、それらの機能を維持できるかということが統廃合の検討の際に重要だ。特に災害時にアクセスしやすい避難所がなくなることが、地区にとって大きな課題になる。
- 他地区の公民館を使うことには抵抗があるので、やはり地区内に活動の場がほしい。空き家の活用などでも構わないから場所を確保したい。
- 他地区の公民館を使ってもアクセス面などで支障がなかったり、新たにできる複合施設が住民の集う場として整備されるのなら、公民館が小学校区に1カ所になっても受け入れられると思う。
- 隣接地区の公民館との距離や地区間のつながりの強さなど、地区によって事情が異なるので、公民館の廃止を検討する際には、住民にしっかりヒアリングした上で判断し、代替えの場を確保してほしい。
- 市の公民館がなくなっても、それぞれの地区の自治会館を集会施設として活用できるだろう。ただし、耐震化されていないので、避難所としては不安があるため、集会施設にする場合には、市から耐震の補助などがあるとよい。
- 空き家を集会施設として利用することはイメージできるが、避難所にもなることを考えると建物の安全性の面で不安を感じる。十分な維持管理がされていない既存の公民館も同様に不安だ。
- 上滝、大庄、小見、福沢のコミュニティセンターはまだ新しく立派なものなので、学校との複合化の対象にはならないだろう。一方、対象になりそうな公民館のある地区には小学校がないので、この地域では集会施設の学校への複合は考えづらい。
- 小学校区に1カ所を配置する方針だと、小見や福沢のように生徒数が少なくなると小学校の統廃合が検討されそうな地域では、是が非でも小学校を残したいということになり、学校の統廃合の議論に影響が出るのではないかと。

## ②文化施設

- 大山文化会館の廃止後は、近隣の代替施設を利用するとあるが、富山の中心部の施設や大沢野の施設は、自動車を使えない高齢者などにとっては遠すぎて利用しづらい。
- 地域の文化祭や小、中学生の音楽発表会、成人式などの地域に密着したイベントを開催したり、地域を活性化するためにはホールが必要だ。音響にこだわった大規模ホールである必要はないが、音楽系の催しや練習もできる 200～300 人収容可能なものがほしい。
- 新しくホールを作る場合は、椅子を可動式にして多目的、多機能型にすると利便性が高まる。

## (2) 社会教育系施設

### ① 図書館

- 図書館は子どもたちの学習の場、知識や教養を身に着ける場として、地区にとって大切な施設だと思う。市の中心部の図書館は遠いので、今の規模や機能を維持してほしい。
- 子どもたちが多く利用しているので、子どものニーズや利便性に応えることを考え、両脇に壁で仕切りをつけた机を設置した学習用のスペースを設けたり、親との待ち合わせに使えるように、駅などの公共交通機関の近くに整備できるとよい。
- 図書館のネットワークを充実させて、他の図書館から書籍を取り寄せたり、どの図書館からでも本の返却ができるようにしてほしい。

## ②博物館

### 《大山歴史民俗資料館》

- 利用人数は少ないが展示内容は充実していると思う。地区の歴史を伝え、継承するためには重要な施設なので、利用率だけで判断して廃止してほしくない。
- 利用者が少ないので増加させないと存続は難しいだろう。あの場所にあるからこそ価値がある施設だと思うので、展示の工夫をして利用者を増やしたい。
- 地域の中心から離れた今の場所まで、歴史民俗資料館だけを目的に行くような施設ではないし、展示内容も一回見れば十分という印象だ。周辺に何か他にも目的となる場所が必要だと思う。

- より多くの人に見に来てもらうためには、展示の工夫に加え、人の集まる場所に移設する方がよいのではないか。上滝駅周辺、新たな複合施設、子ども達の集まるスキー場やキャンプ場の近くなどが考えられる。呉羽の民俗資料館に複合し、職員数の減少を図ることもありうる。

#### 《大山豎穴住居跡展示館》

- 豎穴住居跡展示館にはほとんど人が来ておらず、地元の人でさえ存在を知らない人がいる。長時間滞在するほどの展示内容もなく、一度見れば十分ではないか。
- 住居跡はもともと移設してきたものなので、歴史民俗資料館内に展示コーナーを設けたり、新たな複合施設や呉羽の民俗資料館で展示すれば、今の施設は廃止してもよいと思う。

### (3) スポーツ・レクリエーション系施設

#### ①スポーツ施設

- 大山地域は空港や新幹線駅に近く、自然も豊かで魅力的な資源があるのだから、民間への譲渡を考えるのであれば、待ちの姿勢ではなく積極的にアプローチすべきだ。スポーツ施設に人が集まるようになれば、地域の活性化につながる。
- B&G 海洋センターの体育館とプールは地元の人ほとんど利用していないが、プールは小見小学校が使用しており、社会体育館と大山総合体育センターは中学校の部活でも利用されている。廃止されると学校の活動に支障が出るので配慮が必要だ。
- 大山総合体育センターのピロティを、以前の様に子ども達が集える空間として使えるようにしてほしい。今は照明が切れ、暗くて使えなくなっている。

#### ②観光施設・宿泊入浴施設

- 20年、30年後には地域を支える世代が少なくなることを考えると、白樺ハイツを残すのは難しいのではないか。
- 白樺ハイツの入浴施設は地元の住民も利用しているので、入浴施設は廃止しないでほしい。しっかり運営してくれるなら民営化しても問題ないが、入浴施設はふれあい入浴推進事業の対象なので、民営になっても引き続き対象として使えるようにしてほしい。

- 白樺ハイツは大山地域唯一の宿泊入浴施設であり、山間部の活性化に寄与するものなので、周辺施設と連携したり、温泉をアピールすることで、魅力を高め利用者を増やし、残すことを考えられないか。

#### (4) 学校教育施設

- 通学の利便性を考えると、統廃合で学校が遠くなるのは避けたい。特に小学校の低学年にとっては負担が大きいのではないか。
- 統廃合が必要になる児童生徒数などの明確な基準がないのだとしたら、判断するのは難しいのではないか。地域内にはスキーに力を入れている小見小学校のように、小規模ならではの特色を持った学校があるので、そういう所は統廃合の対象にしないでほしい。
- 「安全性を確保する」視点から考えると、街灯の設置など学校周辺の防犯対策を工夫することが重要だ。
- 地区の行事に学校の子供たちが参加しているので、統廃合後に地区外の学校に通うことになっても、子どもたちと地区との関係が継続できるようにしたい。「地域の活性化を図る」視点から考えて重要だ。

#### (5) 子育て支援施設

- 公立の保育所は 0 歳児保育をしておらず、親と同居していると預けられないなどの制約が多く、幼稚園は帰りの時間が早いので、働く親にとって使い勝手が悪い。地域に子どもがいないわけではないが、ニーズに合わなかったり、制約があるため利用されていない。
- 共働き世帯が増えているので、幼稚園を統合するのは仕方がないと思う。その分保育園を充実させ、働きやすい環境をつくれればよい。
- 園児数が少ないと園児同士の交流の機会が減り、できない活動も出てくるので、ある程度の園児数が確保できた方がよい。
- 統廃合することでアクセスが悪くなったり、民営化されて利用料金が高くなったりするのが心配だ。利用者の負担が増えないように検討してほしい。
- 利用している人にはいろいろな事情や考えもあるので、園児数が少ないからなくせばよいというものではない。統廃合を決める際には、まず保護者の意見を聞くことが重要だ。

## (6) 保健・福祉施設

- 高齢者のニーズが多様化しているため、老人福祉センターを更新しないことは理解できる。
- 老人福祉センターの入浴施設を利用している人が多いので、リーディングプロジェクトの中に入浴施設ができるのであれば、施設の更新がされなくても問題ない。
- 老人福祉センターは洪水時の緊急避難所になっているが、平屋建てで高台に立地しているわけでもないので、洪水になった際の不安がある。

## (7) 行政系施設

- 現在の行政サービスセンターのサービスを維持してほしい。大山地域は本庁舎に近く、必要があれば行くことができるので、新たなサービスは特に必要ない。
- 現状では本庁舎まで行かなければならない書類の提出などが、行政サービスセンターで済むようになるとよい。
- 「将来負担を縮減する」視点から考えると、再生可能エネルギー等の利用によって、行政サービスセンターの管理運営コストを軽減できるとよいのではないかと。

## 2 リーディングプロジェクトについて

### (1) 目指すべき施設像（コンセプト）

- 空港からも富山駅からも近く、インターにも近いアクセスの良さが地域の特色だと思うが、車移動に偏っていて公共交通が弱いのが問題だ。鉄道やライトレールなどの公共交通を充実させ、「鉄道をはじめとした公共交通の基地＝大山」を目指すことをコンセプトにしてはどうか。
- そこに行けば何でも用事が済む場、何かのついでに他のこともできる場になるように、様々な機能を複合できるとよい。駅と一緒にした施設にすることは、利便性を高める一つの方法だ。
- 民間活力を活かして、大山地域らしい魅力あるプロジェクトを打ち出し、文化や芸能、豊かな自然などをアピールすると共に、地域へのアクセス性を高めて、地域外からも人が集まり、移り住むきっかけとなる施設にしたい。



- 大山地域には以前から「学問の都市」というイメージがあり、大学もあるので、その特色をアピールできるとよい。
- スポーツをする環境が整っている地域だと思うので、それを更に充実させるような方向性が考えられる。
- コンパクトシティのエネルギー版として、地域内でエネルギーをつくり、消費することを目指してはどうか。複合施設を再生可能エネルギー等を積極的に活用した「省エネルギーのまち」の中心施設にする。
- 若者が活躍できる社会づくりの拠点として、新しいことにチャレンジできる土壌をつくる場にしたい。
- 地域のお祭などを通じた多世代のつながりが濃く、地域のコミュニティが充実しているところが大山地域の強みだと思う。

## (2) 求められる機能・空間

- 駅舎と行政施設、多目的ホール、図書館、物販施設、カフェが複合していると、若者から年配者までが集う、利便性の高い施設になると思う。パークアンドライドができるようにするには、今より広い駐車場も必要だ。駅を複合施設予定地に移設できると理想的だろう。
- ワンストップで子どもと高齢者の用事が済ませられると負担が減り、子育て世代が介護と子育てを両立させる手助けになる。行政サービス、子どもの遊び場、高齢者の集いの場、飲食スペースなどが複合されていれば、利便性が向上するだけでなく、多世代の交流も生まれるだろう。
- スポーツ環境を整えるために必要な店舗や入浴施設、学問のまちをアピールするための塾や学習スペースなど、施設のコンセプトに合わせた特色ある機能を整備できるとよい。
- 歴史民俗資料館と竪穴住居跡展示館を、今よりも規模を縮小した上で複合してはどうか。
- 複合を機に図書館の蔵書を増やして機能を強化できるとよい。
- 大山文化会館の代わりとなる 250～300 人規模のホールを整備してほしい。席を可動式にすると懇親会やパーティーなどのいろいろな目的に使えてよい。ホールに研修室や会議室が付随しているとより幅広い用途に使える。
- 施設が複合されると、広い駐車場が必要になると思うので、大山文化会館側の敷地を使って確保してほしい。

- 大山文化会館の敷地で施設を複合すると、施設に行くために線路を渡らなくてはならなくなるので、子どもたちも安心して利用できるように、行政センターの敷地で複合化する計画になるとよい。
- 高齢者に使いやすい施設にすれば、若者にとっても便利になると思うので、ユニバーサルデザインに配慮してほしい。
- 大山と縁のある人物や地域の特徴をモチーフにしたデザインを、建物の外観やモニュメントに取り入れてほしい。例えば佐々成政や恐竜などが考えられる。

### (3) その他

- 学園都市を目指すということで国際大学ができたものの、学生達は富山の中心地に住み、そこでアルバイトもしているので地域とのつながりがない。登山客やスポーツ客もいるが、目的地に行くだけでまちに人が流れない。
- 人工知能について詳しくはないが、新しい技術で面白そうだ。積極的に活用することを検討してほしい。
- このワークショップは、まちの事を積極的に考える良い機会になっていると思うが、やはりメンバーに若い世代が少ないのが問題だと思う。若い世代がまちづくりに参加する機会が少ないので、よい複合施設ができたとしても積極的に使ったり、運営に携わってくれるのか疑問だ。